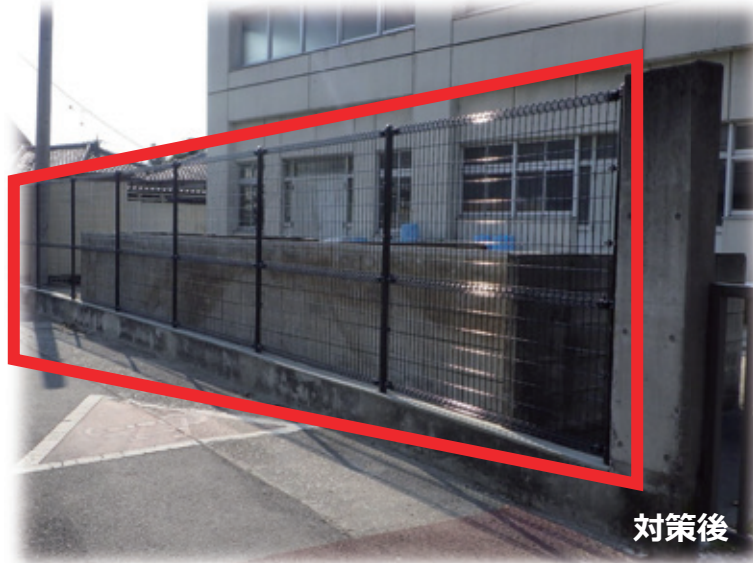


ブロック塀をフェンスに更新し倒壊による事故を防止 (群馬県桐生市)

事業者：国立大学法人群馬大学

I-1 大規模な浸水、土砂災害、地震・津波等による被害の防止・最小化



対策後



対策前



対策名： No.23 学校施設等のブロック塀等に関する緊急対策

事業名： 群馬大学（桐生他）基幹・環境整備（ブロック塀対策）

- ポイント**
- 大規模地震時に倒壊の危険性があるブロック塀をフェンスに更新
 - 倒壊の危険性が減り通学・通行時の安全性を確保

地域の概要・課題

群馬大学桐生キャンパスは、土蔵やシックな構えの店が並ぶ戦前の面影を残した「伝統的建造物保存地区」に隣接しており、周辺では観光客や市民が散策している姿もよく見受けられます。対象のブロック塀は保育園、小学校の通学路にも面しており、倒壊の危険性については学内だけでなく対外的にも大きな問題でした。

事業の概要

現行の法基準に適合しておらず、劣化・損傷等も見られるコンクリートブロック塀について、学生、教職員だけでなく、近隣学校の児童及び市道の歩行者等の安全を早急に確保するため、死角がなく防犯性の高いメッシュフェンスに更新しました。

【見込まれる効果】

ブロック塀は重要な外構として、視界の遮蔽によるプライバシーの確保、不審者の侵入や防火対策などに役立ってきました。しかし、近年は地震による倒壊事故の事例が報告されており、人的被害だけでなく、瓦礫が道路をふさぎ避難や救助活動の支障となった例もあります。

本事業により、地震による倒壊の危険性が低くなるとともに、フェンス化により視界が開かれ、歩行者の衝突事故の防止や、開かれたキャンパスイメージの醸成に繋がりました。また、大学のみならず地域住民の方たちにとっても安全、安心に暮らせるまちづくりにつながりました。

I-2 救助・救急、医療活動などの災害対応力の確保

I-3 避難行動に必要な情報等の確保